

令和5年度予算案について

(R05.02.08記者発表)

令和5年度当初予算案がまとまりましたので、その概要を申し上げます。

新年度の予算編成にあたりましては、その基本的な考えとして、「第7期総合計画」及び「第2期



財政標準化計画」を着実に推進するとともに、4月に市長選挙が控えておりますことから、市政運営の基本となる経常的経費を中心とした「骨格予算」といたしましたが、市政に空白が生じないように、ウイズコロナの新たな段階への移行や子育て支援への取組など、年度当初から実施すべき新規事業のほか、一定程度の継続事業や投資的経費についても盛り込み、編成したところであります。

歳入においては、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復を見込み、市税や航空機燃料譲与税、地方消費税交付金などで、一定程度の伸びを見込んでおります。

その結果、新年度予算であります。一般会計では、469億4,341万4千円とし、前年度と比べ、2,098万7千円の減、6特別会計と公営企業会計を加えた全会計の予算の総額を、811億

8, 598万6千円、前年度と比べ、13億2,062万円の増として編成したところであります。

主な予算内容を申し上げますと、まず、子育て支援に関する取組としては、「子ども医療費助成事業費」について、小学生までの医療費を、初診時の一部負担を除き、原則無料化といたします。

また、障がい児が利用する通所事業所等の利用増に対応するため給付費を増額するほか、国が進める妊娠期から出産・子育て期における「伴走型支援」と「経済的支援」の一体的な支援を推進するため、「出産・子育て応援事業費」を計上するなど、子育て支援の充実を図ることといたします。

脱炭素に関する取組としては、脱炭素社会の構築に向けた具体的な目標や施策を定める「地方公共団体実行計画・区域施策編」を策定いたします。

このほか、引き続き、感染状況に留意しつつ、各種イベントの開催を予定するほか、ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、観光分野・商業分野においても、各種事業を展開する一方で、高齢者事業所等への予防対策を継続するなど、地域経済の活性化と感染防止対策の両立に必要な費用を計上したところであります。

投資的経費では、千歳駅前広場の利便性向上を図るため、西口広場のロータリー・歩行空間の整備に着手するほか、冬季の除雪体制の充実を図るため、除雪車両の計画的な整備を推進するなど、より快適で

安心・安全な生活環境の充実を図る事業を盛り込んだところであります。

また、新年度は政策予算でありますことから、年度当初の事業量に配慮し、公共事業においては、国の交付金の追加分等を活用し、今年度の補正予算の繰り越しにより、切れ目なく早期発注を行うなど、市内経済の活力の維持に努めているところであります。

この予算案につきましては、3月1日に開会予定の「第1回 市議会定例会」に提案する予定であります。